CASIO
WORLD TIME
643・893
使用説明書

このたびは、カシオデジタルウオッチをお買いあげくださいましてありがとうございました。末永くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき正しくお取り扱いくださいますようお願い申しあげます。

なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

時計のお取り扱いで、万一、誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

ご使用上の注意

防水性
- ●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。
  - ●20気圧（200M相当、表または裏に20BARまたは200Mと表示）および30気圧(300M相当、表または裏に30BARまたは300Mと表示）防水の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビング・スキューバダイビング(アクアラング)などで使用できます。
  - ●10気圧防水（100M相当）〈表または裏に10BARまたは100Mと表示〉の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビングなどにお使いいただけますが、専門的な潜水＝スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。
  - ●5気圧防水（50M相当）〈表または裏に5BARまたは50Mと表示〉の場合。水仕事、水泳などでご使用になる水準です。スキンダイビング、高とび込み、ウインドサーフィンなどでのご使用はお避けください。
  - ●BARまたはM表示のないもの。洗顔や雨などの日常の使用に耐える構造になっていますが、水泳・入浴・洗車時などでのご使用はお避けください。
- ●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
- ●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
- ●防水性を保つために定期的（2～3年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
- ●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
- ●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付きの状態で、水仕事・水泳など直接水がかかるご使用はお避けください。

バンドお手入れ
- ●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
- ●ケースやバンドの汚れ、汗、水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふき取り、常に清潔にしてご使用ください。金属バンドについては時々、柔らかい歯ブラシなどによって、石けん水でスキ間にたまった汚れを部分洗いすることをおすすめします。
- ●汚れたままですとサビたり、衣類の袖口を汚したり、皮ふの弱い方はかぶれたりする場合があります。

温度
- ●直射日光が長くあたったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
- ●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ショック
- ●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

磁気
- ●磁気の影響はありません。

薬品類
- ●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずる場合がありますのでご注意ください。

保管
- ●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふき取り、高温、多湿の場所をさけて保管してください。

電池交換について

最初の電池
- ●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
  - ※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
  - ※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消耗
- ●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
- ●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換
- ●電池交換は必ずお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。
- ●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。その時はお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

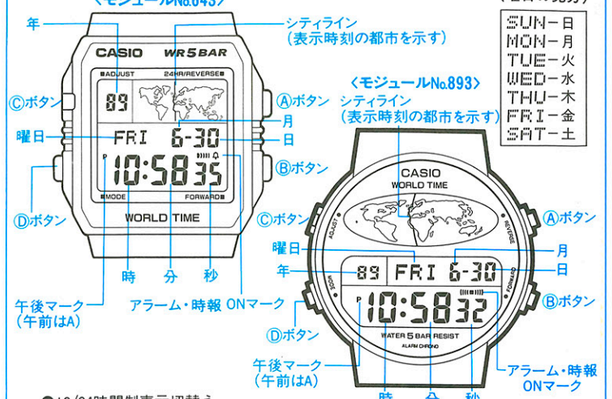
操作のしくみと表示の見方

Ⓓボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。（押すごとに確認音が鳴ります）

※詳しくは各機能の項目をご覧ください。

※各モードでⒶ・Ⓑ・Ⓒボタンを押した後、Ⓓボタンを押すと直接時刻・カレンダーモードに戻ります。

時刻・カレンダーモード



（曜日の見方）

SUN－日
MON－月
TUE－火
WED－水
THU－木
FRI－金
SAT－土

●12/24時間制表示切替え
Ⓐボタンを押すごとに12時間制表示（午前／午後）と24時間制表示（24が点灯）とが切り替わります。

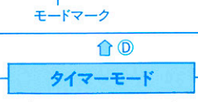
★モジュールNo.893は、表示の一部が異なるだけで、No.643と機能は同じです。本紙ではモジュールNo.643を用いて説明していますが、機能をよくご理解の上お使いください。

ワールドタイムモード



※ワールドタイムモードに切り替えた直後は、前回最後にサーチした都市の標準時が表示されます。

ストップウオッチモード



タイマーモード



アラームモード



アラームモードでⒷボタンを押すごとに各アラーム・時刻表示に切り替わります。



※モードマーク（ＡＬ）表示後約1秒で都市コードを表示します。

※アラームは都市別の現地時刻でセットすることができます。

秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

月に1度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

(1)時刻・カレンダーモードのときに、Ⓒボタンを押して時刻セットモードにします。



(2)時報に合わせて、Ⓑボタンを押すと「秒」が点滅しながら00からスタートします。



秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)Ⓒボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります。

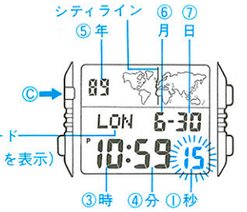


時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後など時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

(1)時刻・カレンダーモードのときにⒸボタンを押して時刻セットモードにします。

確認 ⇒“秒”が点滅していますか？

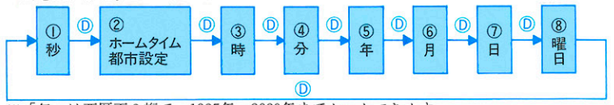


(2)Ⓓボタンを押します。

確認 ⇒点滅する個所が移動しましたか？

※セットモードのとき、Ⓓボタンを押すごとに点滅個所が以下の順で移動します。点滅個所がセット可能ですので、Ⓓボタンでセットしたい個所を選びます。





※「年」は西暦下2桁で、1985年～2029年までセットできます。

(3)Ⓑボタンを押します。

確認 ⇒ 点滅している表示が1つ進みましたか？

※Ⓑボタンを押すごとに点滅個所が1つずつ進み、押し続けると早送りができます。

注）“秒”のときは表示が00になります。⇨「秒の合わせ方」参照。



(4)ホームタイム都市の設定は「時刻・カレンダーモード」のときに表示される基本時刻を都市コードで指定します。従って、時刻のセットはその都市について行ないます。都市コードが点滅しているときにⒷボタンを押すごとに都市コードとシティラインが移動します。

※都市コードと都市名については「ワールドタイムの使い方」の都市コード一覧表を参照してください。

※ホームタイム都市を変更するときは、1度時刻を合わせてあれば都市コードの変更のみで時刻は自動的にセットされます。

時刻セット状態のとき、Ⓐボタンを押すごとにサマータイム（＋1時間、〝DST〟マーク点灯）と通常の時刻とが切り替わります。サマータイムとするときは“DST”が点灯している時刻にしてください。

※DST とは Daylight Saving Time の略です。



Ⓓボタンでセットしたい個所を選び、Ⓑボタンで表示をセットするという操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。

注）「時」のセットのとき午前（Ａ）／午後（Ｐ）、24時間制（24）にご注意ください。

(5)セットが終わったら（どの個所が点滅していても）、Ⓒボタンを押すと時刻・カレンダーモードに戻ります。



●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

●時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に時刻・カレンダー表示にもどります。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
表示方式：FE型液晶デジタル表示
基本機能：時刻表示＝時・分・秒・午前/午後
カレンダー表示＝月・日・曜日　フルオートカレンダー（1985～2029年）
ワンタッチシティリコール機能つき
ワールドタイム機能：表示内容＝世界29ゾーンの時刻を表示　シティライン、サマータイム表示
アラーム機能：時刻アラーム5つ　セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間
セット内容＝月・日・時・分・都市コード　ホームタイム換算機能つき時報　毎正時に2回電子ブザーで報時
タイマー機能：計測単位＝1/10秒　セット範囲＝分　電子ブザー＝10秒間
計測範囲＝24時間　計測機能＝通常計測・積算計測・オートリピート計測
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒　計測範囲＝23時間59分59秒99（24時間計）
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能(±30秒アジャスト)、アラームセット機能、ホームタイムセット機能、サマータイムセット機能、タイマーセット機能、タイマーオートリピートセット機能、ワールドタイム都市名セット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップC/MOS-LSI
使用電池：CR－1616（電池別途販売）
電池寿命：約2年（1日当り電子ブザーを20秒使用した場合）

RE08070901A

ワールドタイムの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムは世界29ヵ所の標準時を内蔵し、各標準時ごとに都市コード、時･分･秒、月･日、ホームタイム（時刻・カレンダー表示）との時差を表示します。
※時刻・月日はホームタイムより自動的に計算されて表示しますので、新たにセットする必要はありません。
※秒および12/24時間制はホームタイムと連動しています。

時刻・カレンダーモード



ホームタイムがロンドンで
6月30日
午後10時58分の場合

Ⓓ

ワールドタイムモード



モードマーク

⇩約1秒後

都市コード　シティライン

ホームタイムとの時差



東京では7月1日午前7時58分

※シティラインとは同一時間帯の中にある主な都市を結んだ線であり、タイムゾーンではありません。

〈都市コード一覧表〉

都市コード	都　市　名	時差	同一標準時の他の都市・地域
――	――	－11	パゴパゴ
HNL	ホノルル	－10	パピート
ANC	アンカレッジ	－9	
LAX	ロサンゼルス	－8	サンフランシスコ、シアトル、ラスベガス
DEN	デンバー	－7	エルパソ、エドモントン
CHI	シカゴ	－6	ダラス、メキシコシティ、ヒューストン
NYC	ニューヨーク	－5	マイアミ、　ボストン、モントリオール
CCS	カラカス	－4	サンチアゴ
RIO	リオデジャネイロ	－3	サンパウロ、ブエノスアイレス
――	――	－2	
――	――	－1	アゾレス諸島
LON	ロンドン	±0	〈グリニッジ標準時〉　ダブリン、リスボン
PAR	パリ	＋1	ローマ、マドリード、アムステルダム、ハンブルグ
CAI	カイロ	＋2	アテネ、ヘルシンキ、ベイルート、ケープタウン
MOW	モスクワ	＋3	クウェート、バグダッド、ナイロビ
THR	テヘラン	+3.5	シラーズ
DXB	ドバイ	＋4	アブダビ
KBL	カブール	+4.5	
KHI	カラチ	＋5	
DEL	ニューデリー	+5.5	ボンベイ、カルカッタ、コロンボ
DAC	ダッカ	＋6	タシケント
RGN	ヤンゴン	+6.5	
BKK	バンコク	＋7	ジャカルタ、ハノイ
HKG	香港	＋8	北京、台北、シンガポール、マニラ、クワラルンプール
TYO	東京	＋9	ソウル、平壌
ADL	アデレイド	+9.5	ダーウィン
SYD	シドニー	＋10	グアム島、メルボルン
NOU	ヌメア	＋11	ポートヴィラ
WLG	ウェリントン	＋12	クリストチャーチ

※この時差は昭和62年3月現在のものです。
※時差はロンドン（グリニッジ標準時）を基準としたものです。

●都市のサーチ（ワールドタイムモード）

ワールドタイムモードでⒶボタンまたはⒷボタンを押すごとに各標準時を表示します。
また、時刻・カレンダーモードよりモードを切り替えた直後は、前回ワールドタイムモードで最後にサーチした都市の標準時が表示されます。



●ワンタッチシティリコール機能（時刻・カレンダーモード）

時刻・カレンダーモードのときにⒷボタンを押すことにより、前回ワールドタイムモードで最後にサーチした都市の標準時を表示します。この機能により、よく使う都市の標準時をワンタッチで見ることができます。

★ワンタッチシティリコールの自動交換

ホームタイムをワンタッチリコール機能で使っている都市に変更すると、ホームタイムであった都市が自動的にワンタッチリコール機能で表示されます。

例）ホームタイムが“ＬＯＮ”（ロンドン）で、ワンタッチリコール機能で表示される標準時が“ＴＹＯ”（東京）のときに、ホームタイムを“ＴＹＯ”に変更するとワンタッチリコール機能で表示される標準時は“ＬＯＮ”となります。

●都市コード名の変更（ワールドタイムモード）

初めからセットされている都市コード名を自分が使う任意の都市名に変更することができます。

例）“ＰＡＲ”（パリ）を“ＲＯＭ”（ローマ）に変更する。

(1)ワールドタイムモードでⒶボタンまたはⒷボタンを押して都市コード名を“ＰＡＲ”に合わせます。



(2)Ⓒボタンを押すと都市コード名の1桁目が点滅します。このときⒹボタンを押すごとに点滅個所が1桁目から3桁目までを移動します。点滅個所がセット可能です。



(3)Ⓑボタンを押すとアルファベットが以下の順で表示されますので、アルファベットを選びます。
※押し続けると早送りができます。



→ ― → A → B → C ― ― ― → X → Y → Z ―

(4)都市名の入力が終わりましたら、Ⓒボタンを押すとセット完了です。



●サマータイムの設定（ワールドタイムモード）

29都市は各都市ごとにサマータイムを設定することができます。

例）“ＮＹＣ”（ニューヨーク）の標準時にサマータイムを設定する。

(1)ワールドタイムモードでⒶボタンまたはⒷボタンを押して都市コード名を“NYC”に合わせます。



(2)Ⓒボタンを押すと都市コードの1桁目が点滅します。このときⒶボタンを押すごとにサマータイム（＋1時間、“DST”マーク点灯）と通常の時刻とが切り替わります。サマータイムとするときは“DST”が点灯している状態にしてください。
※DSTとはDaylight Saving Timeの略です。



(3)サマータイムの設定が終わりましたらⒸボタンを押してセット完了です。



※サマータイムの設定を解除するときも、同様な操作で“DST”が点灯していない状態にします。

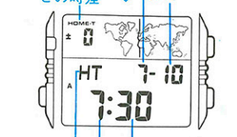
アラームの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位で月・日・時・分・都市コードがセットでき、セットした都市コードの時刻になると20秒間電子ブザーで知らせるアラームが5つあります。
月・日を指定するとその月日のセット時刻に、月・日を指定しないときは毎日セット時刻に鳴ります。
なお、5つのアラームはいずれも同じ使い方です。
また、ホームタイムの毎正時（00分のとき）を“ピッピッピッ”と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。

アラームモード



ホームタイムとの時差　⇩月日

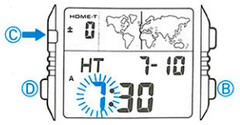


都市コード　時　分

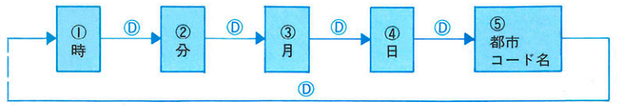
●セットのしかた

(1)アラームモードでⒷボタンを押して合わせたいアラーム番号（AL1～AL5）を表示させます。

(2)Ⓒボタンを押すと「時」が点滅します。



(3)Ⓓボタンを押すごとに点滅個所が下図の順で移動します。



(4)時・分・月・日はⒷボタンを押すごとに点滅個所が1つずつ進みますのでセットします。
※Ⓑボタンを押し続けると早送りができます。
※月･日を指定しないときは“－”または“－－”にします。（「月日のセット」参照）

注）「時」のセットのとき午前（A）／午後（P）にご注意ください。

注）ホームタイムの時刻表示を24時間制表示にしているときはアラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。

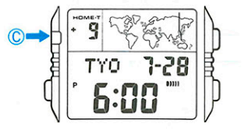


ホームタイム

(5)都市コード名はⒷボタンを押してセットしたい都市コード名を選びます。
※セット中にⒶボタンを押している間、ホームタイムの都市の時刻に換算した時刻を表示します。
※アラームをホームタイムにセットするときは、都市コード名を“ＨＴ”に合わせます。
（“ＨＴ”マークは“ＷＬＧ”の次に表示されます）“ＨＴ”に合わせたときは、ホームタイムの都市コードを変更しても、たえずホームタイムの時刻でアラームが鳴ります。



(6)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押してセット完了です。



●アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的にアラームモードの表示に戻ります。

●月日のセット

月日のセット内容により、次のようにアラームの鳴る日がかわります。
月・日セット　→指定月日の指定時刻に鳴る。
月のみセット　→指定月の1ヵ月間、指定時刻に鳴る。
日のみセット　→月1回、指定日の指定時刻に鳴る。
月日セット無し→毎日指定時刻に鳴る。

●アラーム・時報のON/OFF

各アラーム表示（AL1～AL5）、時報表示のとき、Ⓐボタンを押すごとに各アラーム表示（AL1～AL5）のときはアラームONマーク（))))）が、時報表示のときは時報ONマーク（🔔）が点灯・不点灯をくりかえします。各マークとも点灯しているときがONで、電子ブザーが鳴ります。

〈時報表示〉



時報ONマーク

●鳴っている電子ブザーをとめるには

鳴っている電子ブザーを止めるにはⒶⒷⒹのいずれかのボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⒷボタンを1～2秒以上押し続けると、アラーム1～5が表示されているときはアラームの鳴り方で電子ブザーが鳴り、時報が表示されているときは時報の鳴り方で電子ブザーが鳴ります。

タイマーの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは分単位で最大24時間までセットでき、セット時間が経過すると10秒間電子ブザーが鳴ります。

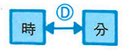
タイマーモード



(1)タイマーモードのときにⒸボタンを押すと「時」が点滅します。



(2)Ⓓボタンを押すごとに点滅個所が「時」と「分」を移動します。



(3)Ⓑボタンを押すごとに点滅個所が1つずつ進みますので、Ⓓボタンでセット個所を点滅させ、Ⓑボタンでセットします。
※Ⓑボタンを押し続けると早送りができます。
※持ち時間を24時間にセットするときは表示を“0：00”にします。



(4)セットが終わったら、Ⓒボタンを押してセット完了です。
Ⓑボタンを押すと減算計測を開始し、残り時間を1/10秒単位で表示します。
※操作確認音が鳴ります。



●ロスタイムがある場合は

減算計測中、Ⓑボタンはスタート／ストップボタンとなり、減算計測をストップさせることができます。

●リピート（繰り返し）計測

タイムアップ後（残り時間0）、計測前にセットした時間を表示しますので　同じ時間を何回も計測するときに便利です。
計測の途中で最初からやり直すときは、計測ストップ後Ⓐボタンを押します。

●オートリピート機能（自動繰り返し計測）

持ち時間のセットのとき（表示が点滅中）、Ⓐボタンを押すごとにオートリピートマーク“𝐈”が点灯・不点灯を繰り返します。オートリピート計測ではタイムアップ後も続けて計測前にセットした時間を繰り返し計測します。

オートリピートマーク



●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるにはⒶⒷⒹいずれかのボタンを押します。

●タイマーセット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的にタイマーモードの表示に戻ります。

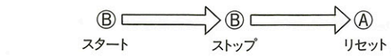
ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。
★計測のしかた…Ⓑボタンを押すごとに操作確認音が鳴ります。

ストップウオッチモード



●通常の計測



※積算計測…ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート（Ⓑボタンを押す）すれば表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測



●1着・2着のタイム計測

